

1 研究主題

子どもが社会的事象への興味関心を高め、意欲的に追求する社会科授業の充実

2 研究の概要

(1) 三条市「農」「食」ミニ講座

○講座名 「川から学ぶ米の価値」

- ・講師 三条地域振興局農村振興部様
三条まんま塾（市内農家）様
- ・進行 市食育推進室「三条まんま塾」事務局様

(2) 授業研修会

○単元名 5年生「工業にたずさわる人々～身近な生活に快適さをもたらすコロナ製品作り～」

- ・授業者 大島小学校 5年生担任教諭
- ・ねらい コロナのファンヒーターづくりを調べることを通して、一つ一つ丁寧に作業をしていることを理解し、コロナの人々が品質の高い製品を作るための様々な工夫や努力に気付く。

3 研究の実際

(1) 三条市「農」「食」ミニ講座

食べ物の価値について、農業やその背景から考える視点を社会科の授業の中に取り入れるために、本講座を三条市食育推進室、および、地元農家で組織する「三条まんま塾」との連携によって実施した。

水の循環やその関連施設、ため池などに関する出前授業の実際、田んぼダムなどについて学ぶことができた。休憩時間には、地元果樹農家の方が生産加工したマスカットの干しぶどうの試食会も実施され、三条市内における産業が、金物産業にとどまらず、米や果樹などの多岐にわたることを学ぶことができた。



(2) 授業研修会

地元三条市に子どもたちの日常生活に密着した「コロナ工場」があるにもかかわらず、その製品を含めた工業製品への興味関心が希薄な子どもたちに、授業者は、コロナ製品の实物を分解した部品を用いて授業を展開した。

子どもたちは、分解された部品を手に取りながら、それぞれの部品の製作過程を予想したり、製品生産に携わる人々の思いや願いに思いをはせたりしながら主体的な学習を進めていった。

子どもたちの社会的事象に対する興味関心を高め、意欲的に追求する社会科学習を展開するためには、实物を用いるなどして、子どもたちが学習したことと日常生活を結びつけていくことが有効であることを改めて学び合った。



4 成果と課題

(1) これまで、地域素材の教材化という視点で、地場産業の金物づくりを中心に研修してきたが、今年度は、「三条市の農業」（米や果樹）について研修することができた。これによって、地域素材の教材化の視点が広がったり深まったりすることが期待できる。

(2) 市などの外部機関研修できたことは、体験学習や見学など、社会科の授業において、子どもたちが「本物にふれる」きっかけづくりができた。

(3) 授業研修に関して、社会科の場合、公開される学級、および単元が5年生に偏る。中学年では、高学年よりも地域を扱う単元が多いことから、今後は中学年での授業研修会が行われるとよい。これによって、具体的な三条市の土地利用やものづくりを学び合うことが可能になる。